

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03151

研究課題名(和文) 第二次世界大戦期におけるオセアニア華僑の動態構造研究

研究課題名(英文) The Activities and the Formation of Overseas Chinese in the Oceania during World War 2

研究代表者

菊池 一隆 (KIKUCHI, Kazutaka)

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号：00153049

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：第二次世界大戦期における華僑の抗日動態、ネットワークと断絶、移動に関しては不明点が多い。そこで、今回は、研究が極めて少ないオセアニア華僑、すなわちオーストラリア、ニュージーランドなど各華僑に焦点をあわせ、実態解明に本格的に取り組んだ。その結果、オーストラリアでは華僑が鉱山業、農業等を職業とし、白人移民の妨害や差別を受けながらも生活圏を築きあげたことを解明した。また、ニュージーランドでも同様な傾向があるが、太平洋戦争の勃発後、戦場に近く、食料供給など後方支援をおこない、差別撤廃に大きく前進した。また、スコットランドからのオセアニア移民と華僑との関係も考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、種々の要因による移動、特に民族移動について欧米各国で研究が活発である。その影響もあり、日本でも移動の研究が進んでいるが、その一環として中国人の移動、定住の観点から世界華僑が注目を浴びている。ただし地域が限定されている研究が多いことは惜まれる。私の場合、世界的規模を視野に入れている。今回の科研費では、第2次世界大戦期のオセアニア華僑を真正面からとりあげ、抗日運動、華僑排斥運動や先住民との関係を含め、従来の研究の空白部分を埋め、かつ華僑研究を深化させた意味で学術価値が高い。また、現代社会における異民族との和解、共生、協力を考える上で一助となり、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Historians have not given clear pictures of the anti-Japanese activities of the overseas Chinese in the world during the WW2. How did they conduct general anti-Japanese campaign, build communication network between them. In order to answer these subjects, I have made intensive investigations of the overseas Chinese in Australia and New Zealand. The jobs of the overseas Chinese were mine workers of gold mines and farmers in Australia and New Zealand. Though they were discriminated from white men, their status gradually were raised during WW2. When Pacific War begun, Australia and New Zealand became a rear base. So overseas Chinese support to the Allied Forces, and a part of the overseas Chinese in Australia became soldiers and sailors. Then I have considered difference between the emigrants from Scotland and the overseas Chinese.

研究分野：人文学

キーワード：中国近現代政治経済史 第二次世界大戦 中国抗日戦争 重慶国民政府 太平洋戦争 華僑 献金 日本品ボイコット

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 華僑研究は経済、社会学などの方面で増大しているにもかかわらず、歴史学では第2次世界大戦期(以下、戦時期)については空白が多い。また、地域的には日本では、東アジア、東南アジアが主に論じられ、手をつけられていない諸国・地域も散見される。戦時期という重要時期、もしくは地域を除いては華僑史の全貌を解明できないと考えた。
- (2) 私はすでに戦時期における東アジア、東南アジア、北米など各華僑の解明を終え、著書、各論文で公表している。また、南アジアのインド、さらにマダガスカル、モーリシャス、南アフリカについても論文や研究ノートをすでに発表している。これらの研究を基礎にさらに地球規模での華僑の動態を本格的に解明するため、イギリス帝国下諸地域、オーストラリア、ニュージーランド各華僑の動態研究に着手する必要があると感じた。先行研究が少ないため困難が予測されたが、歴史開拓的に是が非でも取り組む必要を感じた。
- (3) オーストラリア、ニュージーランド各華僑の動態研究をする上で、やはりイギリスとの関係は重要であり、スコットランド、北アイルランド各華僑とここからオセアニアに向かう移民にも目を配ることにした。その前提としてイギリスを中心とする欧州華僑の動態を押さえておく必要があった。また、戦時期であるため、ナチス・ドイツを無視できず、フランス、オランダ、ベルギー各国の華僑の状況を視野に入れる必要を感じた。

2. 研究の目的

- (1) 戦時期におけるオーストラリア華僑について、シドニー、キャンベラ、メルボルン、ダーウィンなど3、4地点から解明を進める。華僑は主に農業生産に従事していたが、金鉱などもあり、華工が多く、「白豪主義」をとる白人とのトラブルも多発した。その実態解明を現地で進める。太平洋戦争では華僑は後方支援をおこなった。こうした活動が、華僑の地位向上に繋がったとされるが、その要因、推移、実態を探りたい。
- (2) 戦時期におけるニュージーランド華僑の解明のため、北島のウェリントン、オークランドなど2、3地点から現地調査、資料収集を進める。ニュージーランド華僑の実態解明をおこなうが、オーストラリア華僑との共通性と差異は何か。双方はどのように結びついているのか否か、ホバートの地理的位置は関係あるのか否かを実証的に解明する。
- (3) 両国華僑を論じる場合、イギリスのスコットランド、アイルランドとの関係を考察する必要に迫られた。華僑問題と共に両国への移民、人口移動の問題が浮上するからである。ある部分の華僑(華人を包括)は移民としての特徴を有している。したがって、戦時期のイギリスを中心とする欧州の移民・華僑問題の解明も視野に入れる。特に戦時期であるため、ナチス・ドイツの侵略実態にメスを入れ、ドイツ、フランス、オランダなどで華僑がどのような状態に陥ったのか。当地でのレジスタンスや抗日運動と華僑の関連を実証的に考察を加える。

3. 研究の方法

- (1) 日本、台湾、朝鮮の各華僑史はすでに出版しており、それに続き研究を継続している南洋・北米華僑に関して、史料の補強、推敲を重ね、2冊目の華僑専門書『戦争と華僑続編 - 中国国民政府・汪精衛政権の華僑行政と南洋・北米』の出版を目指す。
- (2) 初年度は、夏期休暇を利用してオーストラリアの華僑関連都市シドニー、キャンベラ、メルボルン、そしてダーウィンなどの各大学、各文書館、各国公立図書館、及び華

僑街・華僑博物館で史料収集する。華僑街、書店、古本屋を数多く訪れ、華僑関連書籍、資料集を購入する。

- (3) 第2年度夏期休暇を利用してニュージーランドのウェリントン、オークランドにある大学、文書館、国公立図書館、華僑博物館、軍事博物館など戦時期華僑に関する史料調査、収集をする。また華僑街で現地調査をおこなう。特に当地で華僑が出していた雑誌・新聞などを重視する。第3年度には、イギリスのスコットランド、北アイルランドに行き、欧州華僑、及びオセアニア移民について考察を深める。
- (4) 日本では、時間があるとき、東京の東洋文庫、国会図書館関西分館、京都大学人文科学研究所などに出向き、華僑関連史料を再調査、収集、確認し、研究、論文を補強する。また、すでに台湾で入手していた国史館、中央研究院の関連史料などを組み合わせ分析を加え、華僑の起源、歴史を強化した。
- (5) 以上、新たに調査収集する史料、あるいはすでに所有している史料によってオーストラリア、ニュージーランド各華僑、及び欧州華僑との関係、共通性、差違などについて考察を深める。地道に現有史料で分かる範囲から研究を開始し、同時に現地史料を調査収集し、実証部分を強化し、次々と関連論文の発表を目指すという方式をとる。

4．研究成果

- (1) すでに拙著『戦争と華僑』（2011年、汲古書院）により日本、朝鮮、台湾、南洋華僑動態を解明した。次いでアメリカ、ハワイ、カナダ各華僑などについて、思いの外、時間がかかったが、全体の読み直し、推敲を加え、史料確認、新たに入手の史料により充実を図った。こうして、2冊目の本格的な専門書（単著）『戦争と華僑続編 - 中国国民政府・汪精衛政権の華僑行政と南洋・北米』（汲古書院、2018年5月、511頁）を出版できた。
- (2) 「オーストラリア華僑の歴史とその特質」（以下、下記の発表論文等を参照されたい）では、華僑の抗日動態、また白人による華僑差別に対して差別撤廃行動の実態を実証的に論じた。また、華僑と先住民との良好な関係にも言及した。第2次世界大戦、とりわけ太平洋戦争ではオーストラリアは連合軍の後方基地であり、華僑は軍糧を供給し、また兵士として参戦するなど貢献した結果、社会的地位の向上に成功した。双方の華僑の職業は類似性があるのみならず、両政府の白人優位の華僑政策は相互に影響を及ぼしており、ニュージーランド政府はオーストラリアの華僑政策を参考にしていた。
- (3) 「ニュージーランド華僑の歴史とその特質」では、特に研究が極めて少ないニュージーランド華僑の実態と構造解明をおこなった。オーストラリアと同様に金鉱労働者として出稼ぎに来た後、入植し、農園経営などをおこなった。「白新西蘭主義」による差別もあった。太平洋戦争期には後方支援の位置にあり、華僑は農作物を軍、民間に供給することで社会的地位を高めた。オーストラリアと異なり、ニュージーランド華僑の参軍例は少なく、後方支援に従事した。主に華僑はオーストラリアで仕事が順調でなかった場合にニュージーランドに移動してきたのであり、その逆はあまりないようだ。なお、ニュージーランドでは、ウェリントンにある国立図書館、ビクトリア大学図書館、オークランドでは公立図書館等、及びオーストラリアのタスマニア州立図書館において華僑関係史料、雑誌、書籍、論文を調査し、国民党関係史料や華僑雑誌など入手するという成果をあげた。
- (4) 「戦時期における欧州華僑 - ナチス・ドイツによる占領との関連で」では、第2次世界

大戦下でナチス・ドイツによって席卷されるフランス、ベルギー、及びイギリスにおける華僑の動態を追究した。ナチス・ドイツ下のフランスなどではユダヤ人のみならず、華僑も弾圧され、収容所に入れられる者もいた。ただし日本人は同盟国ということで難を逃れた。そこで華僑は日本人と称することで生き延びた者もいる。また、イギリス華僑は抗日戦争支援に立ち上がり、日本品ボイコットや抗日献金などを推進した。ただし欧州華僑については実証が不十分な点がある。

- (5)「戦時期の中南米華僑 - メキシコ・キューバ・パナマ・コスタリカ」では、今回のテーマを補強するため、不明点が多い中南米華僑について論じた。メキシコなどでの排華運動、日本人移民との対立などをとりあげ、世界華僑の研究面での実証を補強した。
- (6)戦時期のオセアニア華僑とイギリス華僑の相互関連、及び移民問題についての史料調査収集、考察をおこなった。グラスゴーでは、リネンホール図書館所蔵の当時の地方新聞などで華僑、及び東アジアの記事を調査した。ベルファーストの中央図書館では日中戦争関連史料を入手した。クイーン大学のマククレイ図書館では、当時の新聞史料から当地が失業、飢餓の時代であったことを押さえた。エディンバラ大学では同大学公文書館で中国人留学生関連史料を調査、また国立公文書館などで関連史料を調査した。華僑や中国人留学生の位置、特色、中国抗日戦争支援の実態に関する史料を調査収集した。
- (7)日本での華僑研究は、日本国内の神戸、横浜、長崎、函館などに特化され、海外では日本と関係の深い東アジア、そして東南アジア諸国、植民地の華僑研究に留まっている。また、時期的には1920年代までと戦後が主流で、遺憾ながら戦時期は空白なまま残されている。そこで、私の主な成果は、研究の盲点を突き、戦争期と多くの不明地域に焦点を当て、解明した点にある。当然、今後の国内外の研究動向に遅かれ早かれ影響を及ぼすと確信している。上記のオセアニア、欧州、中南米各華僑などについては第3冊目の著書にまとめて出版するつもりであり、今回の科研後も研究を深化させる所存である。そして、最終的には世界華僑の戦時期動態構造の本格的な解明を目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 33
2. 論文標題 三民主義青年団の創設とその活動 『反共抗日』青年運動の軌跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知学院大学『人間文化』	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 48
2. 論文標題 ニュージーランド華僑の歴史とその特質 アジア・太平洋戦争と関連させて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 284（1）-260（25）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 43
2. 論文標題 戦時期の中南米華僑 メキシコ・キューバ・パナマ・コスタリカ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知学院大学人間文化研究所報	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 32
2. 論文標題 満洲事変と第一次上海事変 十九路軍と東北義勇軍の対日抵抗の実態と特質	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知学院大学『人間文化』	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 47
2. 論文標題 オーストラリア華僑の歴史とその特質 アジア・太平洋戦争と関連させて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 210(1) - 186(24)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 148・149合併
2. 論文標題 台湾北部タイヤル族の二段階変容 日本植民地時代、国民党政権時代を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋歴史科学協議会『歴史の理論と教育』	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 44
2. 論文標題 中国特務「藍衣社」について-起源・形成・主張	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知学院大学人間文化研究所報	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 34
2. 論文標題 中国特務「藍衣社」の組織と「反共抗日」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知学院大学『人間文化』	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 45
2. 論文標題 戦時期における欧州華僑-ナチス・ドイツによる占領との関連で	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知学院大学人間文化研究所報	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池一隆	4. 巻 49
2. 論文標題 1950年代の台湾「白色テロ」の実態と特色	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 200(1)-177(24)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 菊池一隆
2. 発表標題 1950年代の台湾「白色テロ」
3. 学会等名 雷震日本留学百年記念・逝去40周年記念国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 菊池一隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 529
3. 書名 戦争と華僑統編 中国国民政府・汪精衛政権の華僑行政と南洋・北米	

1. 著者名 菊池 一隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 216
3. 書名 日本軍ゲリラ 台湾高砂義勇隊	

1. 著者名 菊池一隆	4. 発行年 2017年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 290
3. 書名 台湾原住民オーラルヒストリー 北部タイヤル族和夫さんと日本人妻緑さん	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----